

今金北地区の事業の効用に関する説明資料

1 総費用総便益比の算定

(1) 総費用総便益比の総括

(単位：千円)

区 分	算定式	数 値
総費用（現在価値化）	①＝②＋③	50,771,830
当該事業による費用	②	29,357,861
関連事業による費用、資産価額、再整備費	③	21,413,969
評価期間（当該事業の工事期間＋40 年）	④	53 年
社会的割引率		4%
総便益額（現在価値化）	⑤	62,651,211
総費用総便益比	⑥＝⑤÷①	1.23

(2) 総費用の総括

(単位：千円)

区 分	資産価額 （事業着工 時点） ①	当該事業 による費用 ②	関連事 業によ る費用 ③	再整備費 ④	資産価額 （評価期間 終了時点） ⑤	総費用 ⑥＝①＋②＋ ③＋④－⑤
国営造成施設	8,985,558	29,357,861	－	7,947,799	1,346,953	44,944,265
道営造成施設	3,058,425	－	－	2,929,258	210,229	5,777,454
その他造成施設	9,318	－	－	43,035	2,242	50,111
合 計	12,053,301	29,357,861	－	10,920,092	1,559,424	50,771,830

※各造成施設の詳細については「今金北地区の事業の効用に関する詳細」を参照

(3) 年総効果額、総便益額の総括

(単位：千円)

効果項目	区 分	年総効果 (便益) 額	総便益額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果				
作物生産効果		692,747	21,521,225	区画整理及び用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物生産量が増減する効果
品質向上効果		132,489	4,461,156	区画整理及び用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での生産物の価格が維持、向上する効果
営農経費節減効果		1,171,855	32,213,888	区画整理及び用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果
維持管理費節減効果		△33,454	△1,226,378	区画整理及び用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での施設の維持管理費が増減する効果
農業の持続的発展に関する効果				
耕作放棄防止効果		39,611	990,986	区画整理を実施したことにより、耕作放棄の発生が防止され、農産物の生産が維持される効果
その他の効果				
国産農産物安定供給効果		151,860	4,690,334	区画整理及び用水施設の整備により農業生産性の向上や営農条件等の改善が図られ、国産農産物の安定供給に寄与する効果
合 計		2,155,108	62,651,211	

※総便益の算定の詳細については「今金北地区の事業の効用に関する詳細」を参照

2 年効果額の算定方法

(1) 作物生産効果

○効果の考え方

事業を実施した場合（事業ありせば）と実施しなかった場合（事業なかりせば）の作物生産量の比較により年効果額を算定した。

○対象作物

今金北地区の事業の効用に関する詳細のとおり

○年効果額算定式

年効果額 = 単収増加年効果額^{※1} + 作付増減年効果額^{※2}

※1 単収増加年効果額 = 作付面積 × (事業ありせば単収－事業なかりせば単収)
× 単価 × 単収増加の純益率

※2 作付増減年効果額 = (事業ありせば作付面積－事業なかりせば作付面積)
× 単収 × 単価 × 作付増減の純益率

○年効果額の算定

(単位：千円)

区 分	作付面積 (ha)		増加粗収益額	年効果額
	現況	計画		
新設整備	1,521	1,518	348,572	208,563
更新整備	1,521	1,521	611,600	484,184
合 計			960,172	692,747

※作物生産効果における作物毎の詳細については「今金北地区の事業の効用に関する詳細」を参照。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

- ・ 作付面積：各作物の作付面積は以下のとおり
「現況作付面積」・国営今金北土地改良事業計画書に記載された現況面積。
「計画作付面積」・国営今金北土地改良事業計画書に記載された計画面積。
 - ・ 更新整備では、現況施設のもとで作物生産量が維持される面積であり、現況＝計画とした。
- ・ 単収：増加粗収益額の算定に用いる各作物の単収については以下のとおり
「事業なかりせば単収」・新設整備では、現況単収であり、農林水産統計等による事業実施前直近5か年の平均単収により算定した。
 - ・ 更新整備では、用水機能の喪失時の単収であり、現況単収に効果要因別の失われる増収率分を減じて算定した。
「事業ありせば単収」・新設整備では、計画単収であり、現況単収に効果要因別の増収率を考慮して算定した。
 - ・ 更新整備では、現況単収であり、農林水産統計等による事業実施前直近5か年の平均単収により算定した。
「効果算定対象単収」・事業ありせば単収と事業なかりせば単収の差である。
(作付増においては地域の計画単収、作付減においては地域の現況単収である。)

- ・生産物単価：関係ＪＡ聞き取りによる直近５か年の販売価格に消費者物価指数を反映した価格を用いた。
- ・純益率：「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」による標準値等を用いた。

（２）品質向上効果

○効果の考え方

事業を実施した場合（事業ありせば）と実施しなかった場合（事業なかりせば）の生産物価格の比較により年効果額を算定した。

○対象作物

今金北地区の事業の効用に関する詳細のとおり

○年効果額算定式

年効果額 ＝ （事業ありせば作物単価－事業なかりせば作物単価） × 効果発生量

○年効果額の算定

（単位：千円）

区 分	効果発生要因		年効果額
	単価向上	商品化率向上	
新設整備	－	－	－
更新整備	132,489	－	132,489
合 計	132,489	－	132,489

※品質向上効果における作物毎の詳細については「今金北地区の事業の効用に関する詳細」を参照。

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

- ・効果対象数量：作物生産効果における作付面積、単収から算定された生産量。
- ・生産物単価：「現況単価」は、関係ＪＡへの聞き取りによる最近５か年の販売価格に消費者物価指数を反映した価格を用いた。なお、本事業による農産物の品質の向上は見込めないことから「現況単価」＝「事業ありせば単価」とした。
「事業なかりせば単価」は、「現況単価」に畑地かんがい導入地区の試験データを用いて算定した畑地かんがい品質向上率等を考慮し決定した。

（３）営農経費節減効果

○効果の考え方

事業を実施した場合（事業ありせば）と実施しなかった場合（事業なかりせば）の労働費、機械経費、その他の生産資材費について比較し、それらの営農経費の増減から年効果額を算定した。

○対象作物

今金北地区の事業の効用に関する詳細のとおり

○年効果額算定式

年効果額 ＝ （事業なかりせば単位面積当たり営農経費 － 事業ありせば単位面積当たり営農経費） × 効果発生面積

○年効果額の算定

（単位：千円）

区 分	事業なかりせば①	事業ありせば②	年効果額 ③＝①－②
新設整備	現況営農経費	計画営農経費	837,162
更新整備	事業なかりせば営農経費	現況営農経費	334,693
合 計			1,171,855

※営農経費節減効果における作物毎の営農経費の詳細については「今金北地区の事業の効用に関する詳細」を参照。

- ・ 現況営農経費：国営今金北土地改良事業計画書を基に機械・人力単価を現時点に補正し算定した。
- ・ 計画営農経費：国営今金北土地改良事業計画書を基に機械・人力単価を現時点に補正し算定した。
- ・ 事業なかりせば営農経費：地域の水利施設の機能が失われた場合に想定される水管理作業に係る経費を考慮し算定した。

（４）維持管理費節減効果

○効果の考え方

事業を実施した場合（事業ありせば）と実施しなかった場合（事業なかりせば）を比較し、施設の維持管理費の増減をもって年効果額を算定した。

○対象施設

総費用に計上した、当該事業及び受益地内で一体的に効用を発揮している全ての土地改良施設

○年効果額算定式

年効果額 ＝ 事業なかりせば維持管理費 － 事業ありせば維持管理費

○年効果額の算定

(単位：千円)

区分	新設	現況維持管理費①	事業ありせば維持管理費②	年効果額 ③＝①－②
	更新	事業なかりせば維持管理費①	現況維持管理費②	
新設整備		45,615	37,355	8,260
更新整備		3,901	45,615	△41,714
合 計				△33,454

- ・事業なかりせば維持管理費：国営今金北土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正し算定した。
- ・事業ありせば維持管理費：国営今金北土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正し算定した。
- ・現況維持管理費：国営今金北土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正し算定した。

(5) 耕作放棄防止効果

○効果の考え方

事業を実施しなかった場合（事業なかりせば）に耕作放棄の発生が想定される農地が有している作物生産量をもって年効果額を算定した。

○対象工種

区画整理

○年効果額算定式

年効果額 ＝ 事業なかりせば発生が想定される耕作放棄地が有している作物生産の総効果額
× 還元率

○年効果額の算定

(単位：千円)

区 分	総効果額 ①	割引率	効果算定期間 (年)	還元率 ②	年効果額 ③＝①×②
新設整備	866,770	0.04	53	0.0457	39,611

- ・総効果額：単位面積当たり効果額を基に、各年の事業なかりせば発生する耕作放棄面積を乗じた年別効果額に割引率を適用して算定した割引後の年別効果額を総計して算定した。
- ・還元率：総効果額を効果算定期間における年効果額に換算するための係数。

（６）その他の効果（国産農産物安定供給効果）

○効果の考え方

国産農産物の安定供給に対して国民が感じる安心感の効果であるため、一般国民に対してWTP（Willingness To Pay：支払意思額）を尋ねることで、その価値を直接的に評価する手法であるCVM（Contingent Valuation Method：仮想市場法）により年効果額を算定した。

○対象作物

作物生産効果算定作物のうち、食料生産に係るもの

○年効果額算定式

$$\begin{aligned} \text{年効果額} &= \text{年増加粗収益額} \times \text{単位食料生産額当たり効果額（原単位）} \\ &\quad + \text{年増加供給熱量} \times \text{単位供給熱量当たり効果額（原単位）} \end{aligned}$$

○年効果額の算定

（単位：千円）

区 分	増加粗収益額 ①	増加供給熱量 （千kcal） ②	単位食料生産額 当たり効果額 （円／千円） ③	単位供給熱量 当たり効果額 （円／千kcal） ④	当該土地改良 事業における 年効果額 ⑤＝①×③＋ ②×④
新設整備	348,572	3,213,078	49	9.9	48,889
更新整備	611,600	7,374,021	49	9.9	102,971
合 計	960,172	10,587,099			151,860

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

- ・増加粗収益額、増加供給熱量：作物生産効果の算定過程で整理した結果を用いて、事業ありせばと事業なかりせばにおける増加粗収益額及び増加供給熱量を整理した。
- ・単位食料生産額当たり効果額、単位供給熱量当たり効果額：一般国民に対し国産農産物の安定供給についてWTPを尋ねるCVMにより、年効果額の算定に用いる単位食料生産額当たり効果額（原単位）は49円／千円、単位供給熱量当たり効果額（原単位）は9.9円／千kcalとした。

３ 評価に使用した資料

【共通】

- ・農林水産省農村振興局整備部（監修）〔改訂版〕「新たな土地改良の効果算定マニュアル」大成出版社（平成27年9月5日第2版第1刷）
- ・土地改良事業の費用対効果分析に関する基本指針の制定について（平成19年3月28日付け18農振第1596号農村振興局長通知（最終改正：令和7年4月2日））
- ・土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの制定について（平成19年3月28日付け18農振第1597号農林水産省農村振興局企画部長通知（最終改正：令和7年4月2日））
- ・「国産農産物安定供給効果」について（平成27年3月27日付け26農振第2072号農林水産省農村振興局整備部長通知（令和5年4月3日一部改正））
- ・土地改良事業の費用対効果分析における参考資料等について（令和5年9月13日付け農林水産

省農村振興局整備部関係課関係班連名事務連絡)

- ・土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について（平成19年3月28日付け18農振第1598号農林水産省農村振興局企画部長通知（令和7年4月1日一部改正））
- ・土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数等について（令和7年4月1日付け農林水産省農村振興局整備部土地改良企画課課長補佐（事業効果班）事務連絡）

【費用】

- ・当該事業費に係る一般に公表されていない諸元については、北海道開発局函館開発建設部函館農業事務所調べ

【便益】

- ・北海道開発局「国営今金北土地改良事業計画書」
- ・農林水産省北海道農政事務所（平成17年～平成25年）「北海道農林水産統計年報」北海道農林統計協会
- ・効果算定に必要な各種諸元については、北海道開発局函館開発建設部函館農業事務所調べ

今金北地区の事業の効用に関する詳細

1 (2) 総費用の総括

(単位：千円)

区分		施 設 名 (又は工種)	資産価額 (事業着工時点) ①	当該事業による費用 ②	関連事業による費用 ③	再整備費 ④	資産価額 (評価期間終了時点) ⑤	総費用 ⑥ =①+②+③+④-⑤
国 営 造 成 施 設	区 画 整 理	区画整理	292,873	28,617,558	-	2,253,618	708,798	30,455,251
		美利河ダム	1,037,874	-	-	-	26,201	1,011,673
		住吉頭首工	321,781	-	-	76,726	38,874	359,633
		第1幹線用水路	1,433,906	-	-	710,114	99,984	2,044,036
		小計	3,086,434	28,617,558	-	3,040,458	873,857	33,870,593
	農 業 用 排 水	神丘頭首工	0	487,691	-	661,918	68,689	1,080,920
		鈴岡揚水機	0	252,612	-	139,286	37,839	354,059
		真駒内ダム	2,372,201	-	-	-	22,489	2,349,712
		真駒内第2幹線用水路	1,498,110	-	-	1,168,935	171,520	2,495,525
		神丘頭首工(本体)	610,870	-	-	472,801	70,016	1,013,655
		鈴岡揚水機(建物)	137,946	-	-	540,002	76,916	601,032
		国営神丘幹線用水路	732,906	-	-	1,110,762	14,023	1,829,645
		国営鈴岡幹線用水路	547,091	-	-	813,637	11,604	1,349,124
		小計	5,899,124	740,303	-	4,907,341	473,096	11,073,672
	計		8,985,558	29,357,861	-	7,947,799	1,346,953	44,944,265
道 営 造 成 施 設	区 画 整 理	1 1 種川頭首工	317,311	-	-	815,829	34,486	1,098,654
		6 の 9 取水口	108,225	-	-	35,532	12,942	130,815
		6 の 1 神丘第 1 頭首工	82,926	-	-	27,237	9,916	100,247
		6 の 4 神丘第 4 頭首工	118,398	-	-	47,537	14,050	151,885
		6 の 5 神丘揚水機	2,114	-	-	42,318	5,570	38,862
		田代揚水機	39,821	-	-	34,344	1,446	72,719
		神丘2号排水路	239,765	-	-	229,487	12,294	456,958
		神丘3号排水路A	250,780	-	-	401,989	4,326	648,443
		神丘3号排水路B	261,548	-	-	195,769	15,892	441,425
		神丘5号排水路	129,405	-	-	103,252	6,887	225,770
	小計	1,550,293	-	-	1,933,294	117,809	3,365,778	
	農 業 用 排 水	道営神丘地区用水路	1,508,132	-	-	995,964	92,420	2,411,676
		小計	1,508,132	-	-	995,964	92,420	2,411,676
		計	3,058,425	-	-	2,929,258	210,229	5,777,454
そ の 他 造 成 施 設	区 画 整 理	6 の 2 神丘第 2 頭首工	9,272	-	-	25,975	1,098	34,149
		6 の 3 神丘第 3 頭首工	46	-	-	11,930	503	11,473
		107内ヶ島(取水口)	0	-	-	225	28	197
		108牧田(取水口)	0	-	-	225	28	197
		109三ツ橋(取水口)	0	-	-	225	28	197
		110内ヶ島(取水口)	0	-	-	225	28	197
		111内ヶ島(取水口)	0	-	-	225	28	197
		120阪井(揚水機)	0	-	-	1,164	146	1,018
		216遠藤(揚水機)	0	-	-	1,671	209	1,462
		220戸室(揚水機)	0	-	-	1,170	146	1,024
		計	9,318	-	-	43,035	2,242	50,111
		合 計	区画整理	4,646,045	28,617,558	-	5,016,787	993,908
農業用排水	7,407,256		740,303	-	5,903,305	565,516	13,485,348	
計	12,053,301		29,357,861	-	10,920,092	1,559,424	50,771,830	

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

今金北地区の事業の効用に関する詳細
2（1） 作物生産効果－1

作物名	新設・更新	作付面積			効果要因	単 収				生産増減量 ③＝①×②÷100	生産物単価 ④	増加粗収益額 ⑤＝③×④	純益率 ⑥	年効果額 ⑦＝⑤×⑥
		現況	計画	効果発生面積 ①		事業なかりせば単収	事業ありせば単収	増収率	効果算定対象単収 ②					
水稻	新設	583 ^{ha}	581 ^{ha}	364 ^{ha}	単収増（客土）	kg/10a 505	kg/10a 530	% 5	kg/10a 25	t 91.0	千円/t 194	千円 17,654	% 92	千円 16,242
					小計					91.0		17,654		16,242
				△ 2	作付減	505	－	－	505	△ 10.1	194	△ 1,959	26	△ 509
					小計					△ 10.1		△ 1,959		△ 509
	更新	583	583	583	単収増（水管理改良）	212	505	138	293	1,708.2	194	331,391	92	304,879
					小計					1,708.2		331,391		304,879
					水稻 計					1,789.1		347,086		320,612
小麦	新設	54	76	48	単収増（乾田化）	298	349	17	51	24.5	39	956	84	803
				33	単収増（客土）	298	328	10	30	9.9	39	386	84	324
					小計					34.4		1,342		1,127
				22	作付増	－	370	－	360	79.2	39	3,089	－	－
	更新	54	54	－	小計	298	298	－	－	79.2		3,089		－
					小計					－	39	－	84	－
					小麦 計					113.6		4,431		1,127
大豆	新設	106	107	94	単収増（乾田化）	201	249	24	48	45.1	145	6,540	88	5,755
				66	単収増（客土）	201	221	10	20	13.2	145	1,914	88	1,684
					小計					58.3		8,454		7,439
				1	作付増	－	263	－	330	3.3	145	479	－	－
	更新	106	106		小計	1,040				3.3		479		－
				106	単収増（湿潤かんがい）	155	201	30	46	48.8	145	7,077	88	6,228
					大豆 計					48.8		7,077		6,228
ばれいしょ	新設	88	107	79	単収増（乾田化）	3,459	4,462	29	1,003	792.4	92	72,901	92	67,069
				55	単収増（客土）	3,459	3,978	15	519	285.5	92	26,266	92	24,165
					小計					1,077.9		99,167		91,234
				19	作付増	－	4,823	－	4,679	889.1	92	81,797	31	25,357
	更新	88	88		小計					889.1		81,797		25,357
				88	単収増（湿潤かんがい）	2,661	3,459	30	798	702.3	92	64,612	92	59,443
					ばれいしょ 計					702.3		64,612		59,443
緑肥	新設	42	－	△ 42	作付減	－	－	－	－	2,669.3		245,576		176,034
					小計					－		－		－
	更新	42	42	－	小計	－	－	－	－	－		－		－
					緑肥 計					－		－		－
不作付け	新設	1	－	△ 1	作付減	－	－	－	－	－		－		－
					小計					－		－		－
	更新	1	1	－	小計	－	－	－	－	－		－		－
					不作付け 計					－		－		－
水田計	新設	874	871									210,023		140,890
	更新	874	874									403,080		370,550
	合計											613,103		511,440

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。
増収率は、「新たな土地改良の効果算定マニュアル」、近傍地区における試験研究結果、統計データ等を基に整理した。

今金北地区の事業の効用に関する詳細
2 (1) 作物生産効果－2

作物名	新設・更新	作付面積			効果要因	単 収				生産増減量 ③＝①×②÷100	生産物単価 ④	増加粗収益額 ⑤＝③×④	純益率 ⑥	年効果額 ⑦＝⑤×⑥
		現況	計画	効果発生面積 ①		事業 なかりせば 単収	事業 ありせば 単収	増収率	効果算定 対象単収 ②					
小麦	新設	ha 34	ha 33	ha 14	単収増（乾畑化）	kg/10a 298	kg/10a 349	% 17	kg/10a 51	t 7.1	千円/t 39	千円 277	% 87	千円 241
				5	単収増（客土）	298	328	10	30	1.5	39	59	87	51
					小計					8.6		336		292
				△ 1	作付減	298	298	－	298	△ 3.0	39	△ 117	－	－
	更新	34	34	－	単収増（湿潤かんがい）	298	298	－	－	△ 3.0	39	△ 117	－	－
					小計					－		－		－
					小麦 計					5.6		219		292
										－		－		－
小豆	新設	44	52	19	単収増（乾畑化）	217	269	24	52	9.9	527	5,217	88	4,591
				7	単収増（客土）	217	239	10	22	1.5	527	791	88	696
					小計					11.4		6,008		5,287
				8	作付増	－	277	－	248	19.8	527	10,435	－	－
	更新	44	44	37	単収増（湿潤かんがい）	167	217	30	50	18.5	527	9,750	88	8,580
					小計					18.5		9,750		8,580
					小豆 計					49.7		26,193		13,867
										－		－		－
ばれいしょ	新設	104	108	37	単収増（乾畑化）	3,459	4,462	29	1,003	371.1	92	34,141	92	31,410
				9	単収増（客土）	3,459	3,978	15	519	46.7	92	4,296	92	3,952
					小計					417.8		38,437		35,362
				4	作付増	－	4,588	－	4,305	172.2	92	15,842	31	4,911
	更新	104	104	95	単収増（湿潤かんがい）	2,661	3,459	30	798	172.2		15,842		4,911
					小計					758.1	92	69,745	92	64,165
					ばれいしょ 計					758.1		69,745		64,165
										1,348.1		124,024		104,438
てんさい	新設	32	33	14	単収増（乾畑化）	5,292	6,827	29	1,535	214.9	13	2,794	86	2,403
				4	単収増（客土）	5,292	6,086	15	794	31.8	13	413	86	355
					小計					246.7		3,207		2,758
				1	作付増	5,292	5,292	－	5,292	52.9	13	688	－	－
	更新	32	32	27	単収増（湿潤かんがい）	4,071	5,292	30	1,221	52.9		688		－
					小計					329.6		4,285	86	3,685
					てんさい 計					629.2		8,180		6,443
										－		－		－
だいこん	新設	14	18	6	単収増（乾畑化）	3,807	4,911	29	1,104	66.2	49	3,244	90	2,920
				2	単収増（客土）	3,807	4,378	15	571	11.4	49	559	90	503
					小計					77.6		3,803		3,423
				4	作付増	－	5,100	－	4,453	178.1	49	8,727	12	1,047
	更新	14	14	11	単収増（湿潤かんがい）	2,928	3,807	30	879	178.1		8,727		1,047
					小計					96.7	49	4,738	90	4,264
					だいこん 計					96.7		4,738		4,264
										352.4		17,268		8,734
畑小計	新設	228	244									87,366		53,080
	更新	228	228									88,518		80,694
合計												175,884		133,774

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。
増収率は、「新たな土地改良の効果算定マニュアル」、近傍地区における試験研究結果、統計データ等を基に整理した。

今金北地区の事業の効用に関する詳細

2 (1) 作物生産効果－3

作物名	新設・更新	作付面積			効果要因	単 収				生産増減量 ③＝①×②÷100	生産物単価 ④	増加粗収益額 ⑤＝③×④	純益率 ⑥	年効果額 ⑦＝⑤×⑥
		現況	計画	効果発生面積 ①		事業 なかりせば 単収	事業 ありせば 単収	増収率	効果算定 対象単収 ②					
にんじん	新設	ha 9	ha 10	ha 4	単収増（乾畑化）	kg/10a 2,741	kg/10a 3,536	% 29	kg/10a 795	t 31.8	千円/t 69	千円 2,194	% 90	千円 1,975
				1	単収増（客土）	2,741	3,152	15	411	4.1	69	283	90	255
					小計					35.9		2,477		2,230
				1	作付増	2,741	2,741	－	2,741	27.4	69	1,891	12	227
					小計					27.4		1,891		227
	更新	9	9	8	単収増（湿潤かんがい）	2,108	2,741	30	633	50.6	69	3,492	90	3,143
					小計					50.6		3,492		3,143
					にんじん 計					113.9		7,860		5,600
ブロッコリー	新設	7	8	3	単収増（乾畑化）	1,253	1,554	24	301	9.0	261	2,349	91	2,138
				1	単収増（客土）	1,253	1,253	－	－	－	261	－	91	－
					小計					9.0		2,349		2,138
				1	作付増	1,253	1,253	－	1,253	12.5	261	3,263	16	522
					小計					12.5		3,263		522
	更新	7	7	6	単収増（湿潤かんがい）	971	1,253	29	282	16.9	261	4,411	91	4,014
					小計					16.9		4,411		4,014
					ブロッコリー 計					38.4		10,023		6,674
緑肥	新設	18	－	△ 18	作付減	－	－	－	－	－	－	－	－	－
					小計					－		－		－
	更新	18	18	－	単収増（湿潤かんがい）	－	－	－	－	－	－	－	－	－
					小計					－		－		－
					緑肥 計					－		－		－
牧草	新設	330	330	99	単収増（乾畑化）	2,905	3,631	25	726	718.7				
				7	単収増（客土）	2,905	2,905	－	－	－				
					小計					718.7				
					（生乳換算）					287.5	105	30,188	23	6,943
				－	小計	－	－	－	－	－				
	更新	330	330	330	単収増（湿潤かんがい）	2,324	2,905	－	581	1,917.3	105	－	12	－
					小計					1,917.3		－		－
					（生乳換算）					766.9	105	80,525	23	18,521
					牧草 計					1,054.4		110,713		25,464
青刈りとうもろこし	新設	55	55	16	単収増（乾畑化）	4,099	5,083	24	984	157.4				
				1	単収増（客土）	4,099	4,099	－	－	－				
					小計					157.4				
					（生乳換算）					104.9	105	11,015	23	2,533
				－	小計	－	－	－	－	－				
	更新	55	55	55	単収増（湿潤かんがい）	3,279	4,099	－	820	451.0	－	－	－	－
					小計					451.0		－		－
					（生乳換算）					300.7	105	31,574	23	7,262
					青刈りとうもろこし 計					405.6		42,589		9,795
												51,183		14,593
畑小計	新設	419	403											
	更新	419	419											
	合計													
畑計	新設	647	647											
	更新	647	647											
	合計													
合計	新設	1,521	1,518											
	更新	1,521	1,521											
	合計													

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。
 増収率は、「新たな土地改良の効果算定マニュアル」、近傍地区における試験研究結果、統計データ等を基に整理した。
 牧草は2.5kg、青刈りとうもろこしは1.5kgで生乳1kg換算。

今金北地区の事業の効用に関する詳細

2（2）品質向上効果

作物名	効果要因	効果対象数量		生産物単価			単価向上額		年効果額		
		更新	新設	事業なかりせば	現況	事業ありせば	現況－事業なかりせば	事業ありせば－現況	現況－事業なかりせば	事業ありせば－現況	計
		①	②	③	④	⑤	⑥=④-③	⑦=⑤-④	⑧=①×⑥	⑨=②×⑦	⑩=⑧+⑨
水 稲	水管理改良	t 1,236	t -	千円/t 88	千円/t 194	千円/t 194	千円/t 106	千円/t -	千円 131,016	千円 -	千円 131,016
だ い こ ん	湿潤かんがい	322	-	46	49	49	3	-	966	-	966
に ん じ ん	湿潤かんがい	169	-	66	69	69	3	-	507	-	507
新設										-	-
更新									132,489		132,489
合計									132,489	-	132,489

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

今金北地区の事業の効用に関する詳細

2 (3) 営農経費節減効果－1

作物名	ha当たり営農経費				ha当たり 経費 ⑤＝(①－②) ＋(③－④)	効果発生面積 ⑥	年効果額 ⑦＝⑤×⑥
	新設		更新				
	現況営農経費 ①	事業ありせば (計画) 営農経費 ②	事業なかりせば 営農経費 ③	事業ありせば (現況) 営農経費 ④			
	円	円	円	円	円	ha	千円
水稻 (区画整理)	1,347,133	495,969	－	－	851,164	517	440,052
水稻 (用水改良＋区画整理)	－	－	1,376,921	1,347,133	29,788	519	15,460
水稻 (用水改良単独)	－	－	1,027,520	982,212	45,308	64	2,900
小麦 (区画整理)	1,017,868	283,883	－	－	733,985	67	49,177
小麦 (用水改良＋区画整理)	－	－	1,314,587	1,017,868	296,719	48	14,242
小麦 (用水改良単独)	－	－	1,005,661	708,942	296,719	6	1,780
大豆 (区画整理)	1,011,423	322,975	－	－	688,448	96	66,091
大豆 (用水改良＋区画整理)	－	－	1,524,541	1,011,423	513,118	94	48,233
大豆 (用水改良単独)	－	－	1,253,478	739,778	513,700	12	6,164
ばれいしょ (区画整理)	1,525,293	474,528	－	－	1,050,765	96	100,873
ばれいしょ (用水改良＋区画整理)	－	－	2,266,656	1,525,293	741,363	79	58,568
ばれいしょ (用水改良単独)	－	－	1,791,902	1,049,957	741,945	9	6,678
水田 計							810,218

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

今金北地区の事業の効用に関する詳細

2 (3) 営農経費節減効果－2

作物名	ha当たり営農経費				ha当たり 経費 ⑤＝(①－②) ＋(③－④)	効果発生面積 ⑥	年効果額 ⑦＝⑤×⑥
	新設		更新				
	現況営農経費 ①	事業ありせば (計画) 営農経費 ②	事業なかりせば 営農経費 ③	事業ありせば (現況) 営農経費 ④			
	円	円	円	円	円	ha	千円
小麦 (区画整理)	980,623	276,413	－	－	704,210	14	9,859
小麦 (用水改良＋区画整理)	－	－	1,277,342	980,623	296,719	9	2,670
小麦 (用水改良単独)	－	－	988,220	691,501	296,719	20	5,934
小豆 (区画整理)	974,114	320,785	－	－	653,329	23	15,027
小豆 (用水改良＋区画整理)	－	－	1,449,199	974,114	475,085	12	5,701
小豆 (用水改良単独)	－	－	1,229,180	746,208	482,972	25	12,074
ばれいしょ (区画整理)	1,507,801	482,038	－	－	1,025,763	40	41,031
ばれいしょ (用水改良＋区画整理)	－	－	2,215,074	1,507,801	707,273	28	19,804
ばれいしょ (用水改良単独)	－	－	1,776,123	1,062,278	713,845	67	47,828
てんさい (区画整理)	1,802,993	494,235	－	－	1,308,758	14	18,323
てんさい (用水改良＋区画整理)	－	－	2,367,225	1,802,993	564,232	9	5,078
てんさい (用水改良単独)	－	－	1,877,884	1,301,822	576,062	18	10,369
だいこん (区画整理)	2,031,917	994,312	－	－	1,037,605	8	8,301
だいこん (用水改良＋区画整理)	－	－	2,341,422	2,031,917	309,505	3	929
だいこん (用水改良単独)	－	－	2,120,100	1,805,337	314,763	8	2,518
畑小計							205,446

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

今金北地区の事業の効用に関する詳細

2 (3) 営農経費節減効果－3

作物名	ha当たり営農経費				ha当たり 経費 ⑤＝(①－②) ＋(③－④)	効果発生面積 ⑥	年効果額 ⑦＝⑤×⑥
	新設		更新				
	現況営農経費 ①	事業ありせば (計画) 営農経費 ②	事業なかりせば 営農経費 ③	事業ありせば (現況) 営農経費 ④			
	円	円	円	円	円	ha	千円
にんじん (区画整理)	2, 593, 969	756, 338	－	－	1, 837, 631	4	7, 351
にんじん (用水改良＋区画整理)	－	－	3, 128, 399	2, 593, 969	534, 430	3	1, 603
にんじん (用水改良単独)	－	－	2, 209, 751	1, 667, 434	542, 317	5	2, 712
ブロッコリー (区画整理)	3, 673, 131	1, 726, 041	－	－	1, 947, 090	3	5, 841
ブロッコリー (用水改良＋区画整理)	－	－	4, 111, 220	3, 673, 131	438, 089	2	876
ブロッコリー (用水改良単独)	－	－	3, 296, 499	2, 855, 781	440, 718	4	1, 763
青刈りとうもろこし (区画整理)	834, 120	284, 138	－	－	549, 982	16	8, 800
青刈りとうもろこし (用水改良＋区画整理)	－	－	827, 739	834, 120	△ 6, 381	16	△ 102
青刈りとうもろこし (用水改良単独)	－	－	631, 540	626, 091	5, 449	39	213
牧草（サイレジ） (区画整理)	840, 593	213, 859	－	－	626, 734	99	62, 047
牧草（サイレジ） (用水改良＋区画整理)	－	－	1, 040, 842	840, 593	200, 249	99	19, 825
牧草（サイレジ） (用水改良単独)	－	－	793, 594	631, 041	162, 553	231	37, 550
牧草（更新） (区画整理)	366, 427	108, 279	－	－	258, 148	17	4, 389
牧草（更新） (用水改良＋区画整理)	－	－	425, 771	366, 427	59, 344	17	1, 009
牧草（更新） (用水改良単独)	－	－	322, 391	263, 047	59, 344	39	2, 314
畑小計							156, 191
畑 計							361, 637

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

今金北地区の事業の効用に関する詳細

2 (3) 営農経費節減効果－4

作物名	ha当たり営農経費				ha当たり 経費 ⑤＝(①－②) ＋(③－④)	効果発生面積 ⑥	年効果額 ⑦＝⑤×⑥
	新設		更新				
	現況営農経費 ①	事業ありせば (計画) 営農経費 ②	事業なかりせば 営農経費 ③	事業ありせば (現況) 営農経費 ④			
	円	円	円	円	円	ha	千円
新設							837, 162
更新							334, 693
合計							1, 171, 855

※小数点以下を四捨五入していることから、記載値は計算結果と合わない場合がある。

■効果要因は以下のとおり。

(水田)

- ・ 水稻、小麦、大豆、ばれいしょ (区画整理、新設：事業なかりせば→ありせば)
ほ場条件が改善されたことで、機械の利用効率が高まり、経費が節減
- ・ 水稻、小麦、大豆、ばれいしょ (用水改良＋区画整理、用水改良単独、更新：事業ありせば→なかりせば)
用水施設の機能が喪失した場合を想定し、用水管理にかかる経費が減少。
防除用水を自宅より運搬する経費が増加。

(畑)

- ・ 小麦、小豆、ばれいしょ、てんさい、だいこん、にんじん、ブロッコリー、青刈りとうもろこし、牧草 (サイレージ)、牧草 (更新)
(区画整理、新設：事業なかりせば→ありせば)
ほ場条件が改善されたことで、機械の利用効率が高まり、経費が節減
- ・ 小麦、小豆、ばれいしょ、てんさい、だいこん、にんじん、ブロッコリー、青刈りとうもろこし、牧草 (サイレージ)、牧草 (更新)
(用水改良＋区画整理、用水改良単独、更新：事業ありせば→なかりせば)
用水施設の機能が喪失した場合を想定し、用水管理にかかる経費が減少。
防除用水を自宅より運搬する経費が増加。